

図 1.2.13 オフィス関連車両、ホテル来客車両の主要走行ルート



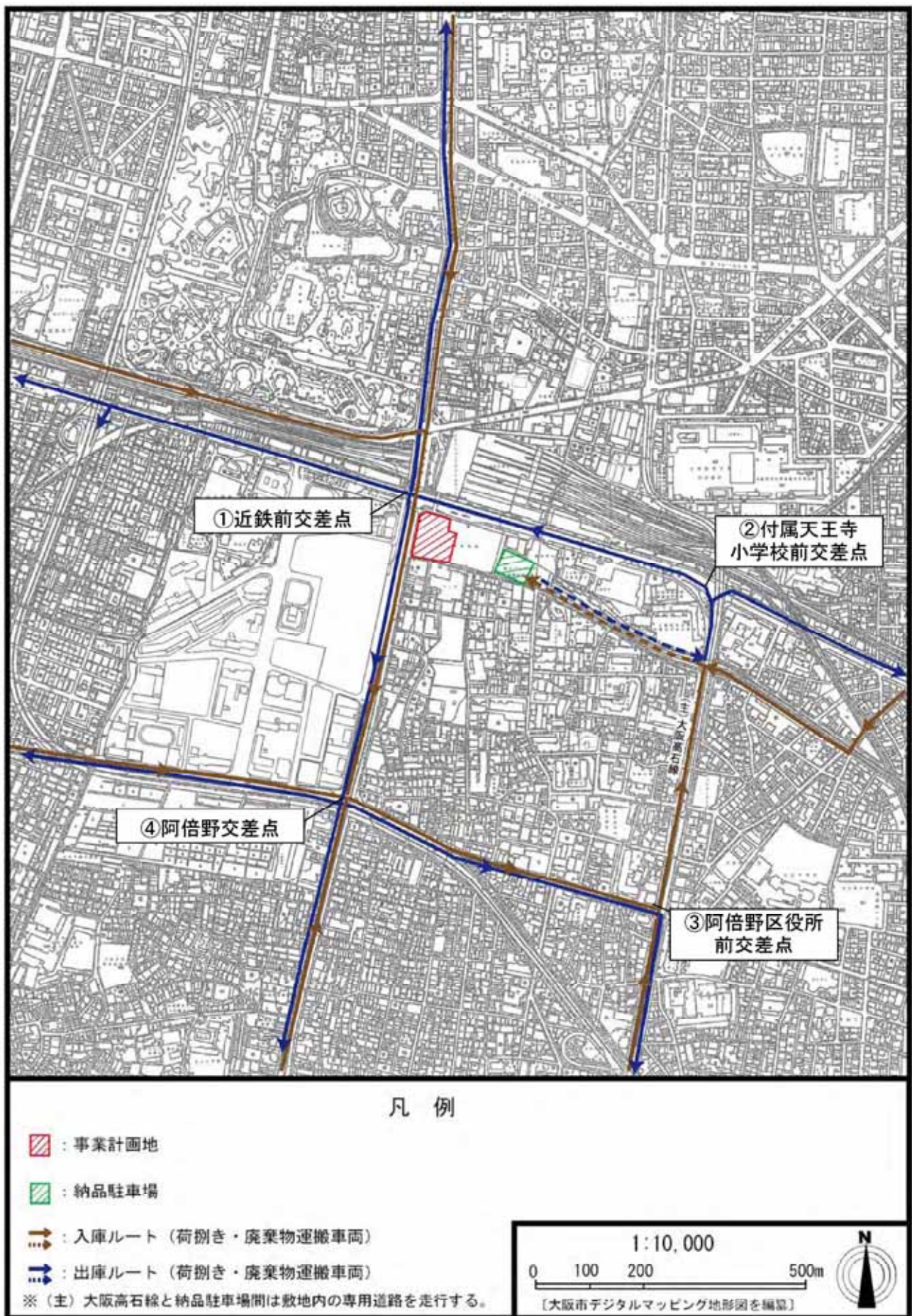


図 1.2.14 荷捌き車両・廃棄物運搬車両の主要走行ルート

## 1.2.7 工事計画

### (1) 工事工程

工事工程を表 1.2.8 に示す。工事は5年程度を予定しており、平成26年春頃に竣工を予定している。

事業計画地は、大阪の南の玄関口である天王寺・阿倍野ターミナルの中心に位置しており、昼間は、事業計画地周辺では多くの店舗などが営業し、自動車交通や歩行者通行も多くなっている。したがって、それらへの影響を出来るだけ低減し、安全な工事を行うとともに、渋滞による沿道環境の悪化を防止するために、掘削工事や内部仕上工事など一部の工事に関しては夜間に行う予定である。

なお、夜間工事の実施にあたっては、関係機関と協議調整の上、安全や環境に配慮した工事計画を立てて実施する計画である。

表 1.2.8 工事工程

年次	1	2	3	4	5
解体工事	[Horizontal bar spanning years 1 to 2]				
基礎工事	[Horizontal bar labeled "山留め工事、杭工事" spanning years 1 to 2]				
躯体工事	[Horizontal bar labeled "掘削工事、地下躯体工事" spanning years 2 to 4] [Horizontal bar labeled "地上躯体工事" spanning years 3 to 4]				
仕上工事	[Horizontal bar labeled "仕上・設備工事、外構工事" spanning years 3 to 5]				

### (2) 工事計画

主な工事内容は表 1.2.9 と図 1.2.15 に示すとおりである。

表 1.2.9 工事の内容

工事区分	工事内容
解体工事	<p>解体重機を既存建物上部に揚重し、上階より順次解体を行う。解体建物の外周には外部足場を設置するとともに、防音パネル等を設置することにより、騒音を低減する計画である。また、解体時に散水養生を行うことにより、粉じん飛散の防止をする。西側歩道部分は、事業計画地内部を歩道提供しており、また既存旧館建物のバルコニーが歩道上に位置しているため、歩行者の安全性を確保するため、歩道上に防護構台を架設する予定である。</p>
基礎工事	<p>山留め工事 新築掘削工事に先立ち、既存建物内側かつ新築建物外周に TSW 工法(掘削土再利用連続壁工法)により、山留め壁を施工する。連壁掘削機により、安定液で溝壁の崩壊を防止しながら精度良く掘削を行い、掘削した現地発生土を主材料としてセメントミルクと混練し、作泥したソイルセメントをトレミー管を用いて、あらかじめ芯材(H鋼)を建込んだ溝壁内に打設を行う。</p>
	<p>杭工事 既存耐圧版下部までケーシングを挿入した後、安定液を使用して掘削し、鉄筋及び鉄骨を挿入する。その後、トレミー管を使用して、生コンクリートを打設して場所打ちコンクリート杭を築造する。</p>
躯体工事	<p>掘削工事 逆打ち工法を採用する為、1階床躯体を施工した後、各根切り底まで油圧ショベルで掘削し、荷揚げ開口下部へ集積した掘削土を、構築した1階床上よりクラムシェルで荷揚げを行い、ダンプトラックで場外搬出する。これにより、掘削地盤面での重機作業音を地下躯体で遮蔽し、騒音の低減を図る計画である。</p>
	<p>地下躯体工事 地下躯体は、1階床躯体より順次、下階の床・梁躯体を構築していく。その際、鉄筋・型枠・鉄骨などの躯体材料は、1階床仮設開口より各根切り底に荷降ろしを行う。また、地上躯体分も含めて、B1階床に仮設スロープでミキサー車を下ろしコンクリートの打設を行うことにより、騒音・振動の低減を図る計画である。</p>
	<p>地上躯体工事 タワークレーンで鉄骨建方を行い、床のデッキプレートを貼った後、床コンクリートを打設し、外装カーテンウォールを取り付ける。この繰り返しの積層工法により地上躯体を施工する。外装カーテンウォールを出来るだけ早期に取付けることにより、安全性の向上と騒音の低減を図る計画である。</p>
仕上工事	<p>仕上・設備工事 躯体工事が完了した階より順次、仕上工事を施工する。</p>
	<p>外構工事 外構工事では、歩道の舗装、植栽等の施工を行う。</p>